



幸せを探しているあなたに

公平な神様が 「私に他の人にはないことを 持つようにされました」



「このままが良いです。主がお造りになったこのまま生きていきます」医師の不注意で、小脳が傷ついたソン・ミョンヒ詩人は、生まれたときから、重症の脳性マヒ患者でした。ソン・ミョンヒ詩人は、幼い時期の苦しみをこのように話しています。「私は七歳になるまで横になっていて、背負われれば、頭が背中の方で転んで、腰が抜けて首が折れるような苦痛を感じました」彼女は十歳を過ぎて、自分の人生を呪いながら神様とお母さんを恨みはじめるようになりました。16歳になった年、深刻な絶望に陥ったとき、教会の講壇の下に入って「神様！ お願いですから私に会ってください。お願いですから私に会ってください。自分のすべてをみなささげます」と叫んだのでした。その年 1979 年の 10 月ある日の夕方、復興会に参加してソン・ミョンヒさんは、自分が罪人であることを悟って、号泣しはじめました。その日からのち、少女ソン・ミョンヒは、聖書にあるイエス・キリストの奥義を一つ一つ発見して体験しはじめました。イエス・キリストの救いの恵みは、値がない恵みだからといって軽く考えるのではなく、価値があまりにも大きくて、その値をつけられないという事実も悟るようになりました。このようにして、ソン・ミョンヒ詩人は、毎日、主との親密に交わりをして生活していました。

しかし、20 台になって、ソ・ミョンヒ詩人は、煩惱と挫折に陥るようになりました。神様に対する不満を抱くようになりました。「私は無益なしもべです。なぜ私をこのようにされましたか。私には車椅子もなくて、教会も行けなくて、奉仕も伝道も何もすることができません。私をいったい何に用いられるのですか」

その時ごとに、主はこのようにおっしゃいました。「わたしがあなたをこのように造らなかつたとすれば、あなたはわたしを信じただろうか。あなたは今、祈りでわたしを喜ばせている。わたしがあなたに必ず聞いて用いる！ わたしがあなたに多くの人を与えよう！」

そのようなある日、彼女は、延喜洞（ヨニドン）の家主が家を空けてくれと言ったので、瑞草洞（ソチョドン）に引っ越すようになりました。それで、延喜洞（ヨニドン）教会で最も親しかった友だちと別れなければなりません。彼女は、「私には何も無い！ 友だちも家も車椅子も何も無い！」と言って泣きはじめたのです。まさにその時、イエス様は彼女に詩を書くようにされました。

私は持っている物もなく、私は他の人が持っている知識なく、私は他人にある健康もないが、私には他の人がないことがある。私は他の人が見られなかったことを見て、私は他の人が聞くこともできない御声を聞いて、私は他の人が受けることもできない愛を受けて、私は他の人が知らないこと悟った。公平な神様、私は他の人が持っていることはないが、公平な神様が、私が他の人になんかあることを持つようにされた。

2 ページ目に続く

彼女は、左手に持っていた鉛筆をおろしました。あまりにもとんでもないことばに驚いて、とうてい書くことができなかつたのです。「いやです！書けません！神様は公平ではありません！私には何も無いわけではない！」苦しみの中で、ソン・ミョンヒ詩人は、神様が感動でくださった「私」という詩を書き終えました。

ある日、極東放送の副社長がソン・ミョンヒ詩人の家を訪問しました。彼は、ソン・ミョンヒ詩人に、アメリカに行って治療を受けるようにしてはどうかと提案しました。思いがけない提案に、彼女はしばらく何も言うことができませんでした。緊張感が漂い、沈黙が流れました。彼女は静かに目を閉じて祈りました。彼女の唇はふるえました。

「いいです。私はこのままが良いです。主が造られた、このまま、そのまま生きます！」

のちに副社長は放送を通してこのように言いました。

「ソン・ミョンヒさんは、このままが良い、主が造られたこのままに生きてと話しました。みなさん、恥ずかしくないですか。私たちは、五体満足で味わうことをみな味わいながらも不平不満を言うのに。私はこの話を聞いて恥ずかしかつたです」

まことの癒しとは何でしょうか ソン・ミョンヒ詩人は1985年5月から国内外のあちこちを通いながら1600回以上の集會を導いて、主をあかししています。喜びと、やりがいを感じる時もあつたのですが、さびしさとつらさを感じる時もありました。とても大変で、行きたくない時もありました。しかし、その時ごとに主は彼女に「あなたは行って、あなたのからだだけ見せてもかまわない」と言われました。それで彼女は行ってからだだけ見せたりもしました。

数多くの障害者を訪ねて行って、刑務所と少年院を訪ねて行って、大きい教会小さい教会を訪ねて行きました。国内だけではなく、国外のあちこちを訪ねて行って主をあかししました。自分に見せて現わしてくださったキリストの奥義を体で、たましいであかししました。彼女は首も支えることができなくて、かろうじてたどたどしくて話しました。

「私…私がこの…こういうからだで…なかつたとすれば、こ…ここに、こなかつたこと…でしょう。その…その御名のお…奥義は、その…その

御名の中に入ってこそ知ることができます。その…御名の中に私がいて、私がその…その御名の中になければなりません」

彼女が分かりにくい声で10分ほどだけ、たどたどしく話しても、多くの人々は涙を流しはじめます。そして、自分の恥ずかしい罪を悔い改めます。その分かりにくい声に感動して、数多くの人が主の胸に戻るようになりました。

使徒パウロは、このように告白しました。

「私たちは、この宝を、土の器の中に入れていのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです」

神様は、弱い土の器のソン・ミョンヒ詩人のからだで、ご自分を現わすことを喜ばれました。私たちは、今、正常な五体を持って、どんな姿で生きていますか。なにが皆さんを苦しくさせますか。なにが皆さんの人生を苦しくさせますか。貧困ですか。病気ですか。違います。貧しいのが問題ではありません。病気になっているのが問題ではありません。周囲に私を助ける人がいないのが問題ではありません。なにが問題ですか。

ソン・ミョンヒ詩人は、重症の脳性マヒで、土の器と同じ、とるに足らない存在でした。この世では頼ることも、見上げる所も、希望もありませんでした。彼女は自分の力では何もできない、とてもとるに足らない土の器でした。しかし、その中にイエス・キリストが入って来られたのです。弱い土の器の中にイエス・キリストが入って来られました。それで、彼女は強い者になりました。彼女はもう土の器ではありません。彼女はもう孤独な者ではありません。彼女は悲しい者ではありません。貧困も、病気も、死さえも怖くありません。

まことの癒し、完全な癒しは、イエス・キリストを信じることによって、永遠な神様の子どもになることです。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

(ヨハネの福音書 3:16)

現場を生かす 連結の輪

ひとりのうしろにいる 300 人 本田健が書いた「ユダヤ人大富豪の教え」という本を見るとこのような文章があります。

「成功するのに必要なことは流れを読む力だ。物事の内面を深くと見抜くことができる力だ。そして、どんな人に対しても 5 分のうちにその人がどんな人物かを読まなければならない。会う人の本質を読みだすのが成功の出発点だ。その人の目を真っすぐ見つめなさい。その中に真実があるのかわかりを確認しなさい。なぜなら、ひとりが 300 人と連結している。経済的なネットワークだけでなく、感情的なネットワークも重要だ。ひとりが絶望の沼に落ちれば、その人に連結した 300 人にも影響を及ぼす。同じように、幸せになる時も周囲の 300 人に影響を与える」

すべての人に向かった連結の輪 今現在、多くの人々とエリート、学生たち、私たちの次世代が困難の中にいます。この人たちに今、私たちが答えを与えて、接触することが重要です。ところが、この人たちに連結する方法がありません。重職者の皆さんが、まさにこの目を開かなければなりません。実際に見れば、信仰生活を長くした人であるほど、伝道できる個人システムがありません。信仰がないからそうなのではなく、信仰生活を長くした人であるほど、周囲に信じる人だけがいて、信じない人はあまりいません。ところが新しい家族の周辺には、多くの伝道の対象者が待っています。これを見なければなりません。教会システムも現場で未信者を生かせる連結の輪がありません。それで、重職者が集まって仕事ができても、できなくても、伝道企画をしてこそ、教会も生きて、現場も生きようになります。すべての宗教は現場があるのに、教会だけ現場システムがありません。他の宗教は、お守りも与え、手相も見てあげて、数珠も回すのですが、教会は具体的なことはありません。専門家の現場は言うまでもありません。エリートたちが教会に通って信仰生活をよくすることができるシステムがありません。エリートたちは、話すことができない霊的問題で苦しめられています。しかし、彼らを生かすシステムがないのです。彼らに答えだけ与えれば、この人たちは自分で処理します。そうすれば、そのあとには、はてしなく、無尽な畑があるのです。重職者ひとりが、自分がいる地域現場で静かにイエス・キリストの光を照らしているならば、神の国は静かに成されるのです。このシステムを持って個人も生かして、地域も生かすのです。これが地教会です。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもへの五つの確信

- 1 救いの確信：イエス・キリストを信じ、受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15 ~ 16、Iヨハネ 5:10 ~ 13)
- 2 祈り答えの確信：神様の子どもはイエス・キリストのお名前前で何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 導きの確信：神様は聖霊で私の中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26 ~ 27、箴言 3:5 ~ 6)
- 4 赦しの確信：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さい(ヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 勝利の確信：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31 ~ 37、Iヨハネ 5:4)

神様の子どもへの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

警告!

私たちが地球上に生きながら一番良く感じるのは「自由」であろう。どこにでも行きたいところに行って、留まりたいところに留まりながら、食べたい時に食べることができるのが当然のことで、感謝なことだ。しかし、その自由をよく味わうようにする方法の一つが、自由を公共的に制限する「警告制度」をおくことだ。

ワールドカップシーズンが迫ってきている。全世界から選抜された最高の男たちの見事な競技と足の動きに、世界の人々は熱狂して歓呼するだろう。しかし、その活発な動きに制約を加える審判がいて、反則する彼らに犯則の水準を見てホイッスルを吹いて警告して、警告にしたがって黄色や赤色のカードを提示することによって、行動を制限して危険要素を取り除き、全体が自由に運動するように管理している。

時には車両を利用して移動する時、速度を制限したり、用心しなければならないことを案内する警告版があちこちに見られる。その指示に従う人々が大部分だが、ある場合に自分の考えをとて過信して、警告を無視して大きい事故にあう人々を見るようになる。瞬間的な自己満足が、家族と他の人々に深い傷を与えて、自分自身も長い苦しみを受けることが起こるのだ。こういう用心しなければならないことを知らせる警告や文字は、私たちの周辺のすべての生活の近くにある。

世の中の道理もそのようであるが、人生の永遠を成し遂げていく霊的人生にもこういう警告は有効だ。すべての宗教は、人間の努力が伴って、自分自身を空けることを上手にすれば、自由、すなわち解脱に達するようになるという。自由な人間なので、それは選択により方向を維持できると見なされるが、しかし、人間は自らを統制して自由を味わえるほど自由な存在ではない。それで、人間は創造された時から警告を受けた。すべてのことを自由にできるが、一つだけは自由にしてはいけない。自由をみな使わない時に味わう自由が維持されるという警告の事実を無視したので、人間は永遠な失敗を自ら招いてしまった。選択するのは自由だが、結局、結果までは自由にできなかったのだ。結局、人間は自らの選択を選び、その結果として避けることができない残酷な問題である、解決不可能な原罪の問題が迫ってきたのだ。



イラスト_ユン・スルギ

人間は、時限付きの時間をおいて地球で自由に生きることができる。しかし、かろうじて 100 年くらいの時間であるだけで、それ以後には創造主の時間の中に入る。はじめの警告を無視した結果の代償が、結局、人間の苦痛であり、死を待機する自由の時間の中で、永遠の時間をおいて、また別の警告を受けている。警告版は目によく見えるように立っているので、選択を正しくすれば、有益な結果を得るようになるが、自らの判断を前面に出せば、その結果として、時にはものすごい責任を負うようになる。

その中で、福音は最も軟らかい警告だ。福音の事実を受け入れるとき、真の自由を味わうようになるが、その反対に選択しないで自らの人生に留まっていれば、福音は、それ以上、福音として説明されない。それで福音は、生かす警告版である。だから、福音に従って行けば良いのだ。

文_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ